

教材名：ぼくのへんしん 東京書籍小学校4年

## 1. 指導過程

自分の考えと友だちの考えを交流し合いながら、いろいろな個性があること、それはお互いに尊重されるものであることに気付く。

	子どもの活動や教師の発問など	留意点
導入	◎題名の「へんしん」とはいったい何のことだと思いますか。 *教材を読む（全文）	・幅広い視点で考えさせる。
展開	◎自分がやろうと決めて何かをやったとき、みなさんほどの場所に当てはまるかを考えて、ネームプレートを黒板に貼りましょう。 ○自分はどの場所に当てはまるかを考え、表にネームプレートを貼る。 *ネームプレートの場所を変えたい人はいませんか。 ◎それぞれの人たちに対してどんなことを思いましたか？思ったことを発表しましょう。 ○自分の考えを発表する。	・じっくり自分を振り返る時間を確保する。 ・子どもの考えを尊重する。  ・意見を板書していく。
まとめ	◎今日の学習の中で気づいたことや思ったことをワークシートに書きましょう。 <観点> ・自分が考えたこと ・他の意見で共感したこと ・他の意見により変わったこと ・学習を通して気づいたこと *いろいろな考えを出し合うことができたことを認め、学習したことに満足感を感じられるようにする。	・時間を保証する。  ・教科書の結末が「正解」ではないことをおさえる。

## 2. 授業者の感想

本時では目標達成にむかって努力した経験を想起させ、それを4つの表に分けて可視化した中で展開しようと考えた。人生「がんばってもできなかった」「やりたかったけどできなかった（しなかった）」「実はやる気が出なかった（出せなかった）」という思いもあると思うが、「自分が決めたことは最後までやり遂げることがすばらしい」ことだけを強調し押しつけるのはいかなものだろうか。子どもたちは受容・共感の気持ちをもって意見を出し合っていたのがほえましかった。「みんなちがって、みんないい」ですよ♪しかしながら、4つの場所という限定した中で進めたことが果たしてよいことだったかという反省も残る今日この頃です。